

詩「招かれなかつたお誕生会」

孫は小学四年生
かわい顔した女の子
仲良しA子ちゃんの誕生会
小さな胸にあれこれと
選んで買ったプレゼント
早く来てねと友の呼ぶ
電話の声を待ちました
夕陽が山に沈んでも
電話の声はありません
孫はポツリと言いました
きつと近所のお友達
おおぜい遊びに行ったので
お茶わん足りずにAちゃんは
困って呼んでくれないかも
二、三日たった校庭で
A子ちゃん家での誕生会
楽しかったと友人に
聞かされた孫はA子ちゃんに
どうして呼んでくれないの
私はとても待ったのよ
A子ちゃんとても
悲しい顔をして
私は誰より千恵ちゃんを
呼びたく呼びたく思ったの
けれども私の母ちゃんは
呼んではならぬと言ったのよ
それで呼べずにごめんねと
あやまる友のその顔を
見つめた孫の心には

どんな思いがあつたでしょう
私は孫に言いました
お誕生会に招かれず
さびしかっただろうねと
孫はあのねおばあちゃん
A子ちゃんとても優しいの
私の大事なお友達
A子ちゃん悪くはないのよ
お母さんが悪いのよ
大人つてみんな我ままよ
寂しく言った孫の瞳に
光る涙がありました
どんなするどい刃物より
私の胸を刺しました
作者の江口いとはさんは、19
12年に愛媛県で生まれ、戦争
で夫を亡くしたあと二人の子
どもを育てられました。苦勞の
多い暮らしのかたわら詩や短
歌を創作し、自らの生活の中
から自然にあふれ出る思いを言
葉に託して差別と闘ってこら
れました。いとはさんの詩には、
日々の生活の中で感じた被差
別者としてのさまざまなお思
い、差別への怒りや悲しみ、悩みや
願いがありのままの言葉で綴
られており、詩の向こう側から
いとはさん自身が語りかけて
いるような気になられます。

いとはさんは、1950年から
地域の子どものために子
ども会を始め、勉強も教えまし
た。この子ども会は、今も続い
ており、いとはさんがつくった子
ども会の歌も歌い継がれてい
ます。また、我が子の就職差別
をきっかけに講演回数300
0回と、全国を回って同和問題
の解決を訴え続けました。いとは
さんはこう語り続けます。
「部落差別という贈り物のお
かげで、前に進んでいく勇気を
もらいました。どこに行っても
どこまで行っても追っかけて
くる差別。この差別から逃げる
ことはやめました。振り返って
にっこりと迎えることに決め
ました。私の前にも後ろにも部
落とわかるレッテルをしっか
りと貼って歩きたい。西に東に
南に北に。この差別の不合理さ
を叫び続けて歩きたい。今日も
明日もあさっても。差別がなく
なる日まで歩きたい。」

市教育委員会生涯学習課
人権教育推進室(教育庁舎2階)
☎ 32・3814
FAX 33・1230
✉ jinkenkyouiku@city.
komatsushima.tokushima.jp

市民文芸 花みずき歌壇 (425) 山崎泰子・選

君よ見よ春浅き野の一面の菜の花なのはな 司馬遼太郎 忌

〈舞う〉と書く墨の濃淡匂いつつかるやかなりし 黒蝶となる 小松島町 萬宮千鶴子

代々に使われてきた土の釜「エヘン」と威張る餅つくときは 前原町 福元 英夫

足止めて少年を見上げまた走る小犬よ春の光をまどう 松島町 六田 靖子

連さんとすれ違ひしか幼き日「ちっか」懐かしフェリーの町で 横須町 天王谷 一

園庭の黄色の蝶々かくれんぼする子の赤い帽子にそつと 日開野町 森 理子

LINEにて孫の写真が届きたり一男一女春を呼ぶ顔 小松島町 綴木 茂治

助詞を変え動詞を動かし短歌つくる三日月西にほほえみ動く 中田町 湯浅 百世

手を握り「ありがとう」と言えぬはがゆきはコロナ下ゆえの 田浦町 岩田 泰一

旅立ちの時 中田町 松並 敦子

お役目を果たしたるごと薄れゆく病舎の窓に夜明けの月は